

(事業者の皆様へ) ヤンバルトサカヤスデの まん延防止に御協力ください

ヤンバルトサカヤスデは、1956年に台湾で発見されたヤスデの一種です。日本では、1983年(昭和58年)に沖縄県で初めて確認され、鹿児島県においては、1991年(平成3年)に徳之島町で大量発生して以来、奄美地域や県本土においても各地で確認されており、その棲息域は年々拡大する傾向にあります。

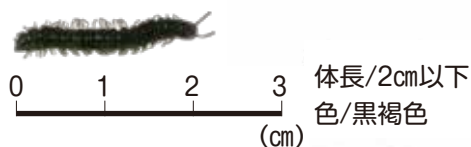
ヤンバルトサカヤスデの拡大は、人為的な移動によるところが大きく、まん延防止には関係する事業者の皆様の御協力が必要です。

ヤンバルトサカヤスデとは？

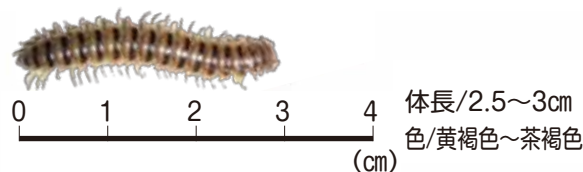
- ヤンバルトサカヤスデは、台湾原産の外来生物です。落ち葉や腐葉土のような腐った植物質を餌としており、日光の当たらない湿った場所を好みます。
- 人や農作物に直接被害を与えることはありません。しかし、繁殖力が強く、おびただしい数の集団で移動するため、見る人に強い不快感を与えます。



◆在来種のヤスデ



◆ヤンバルトサカヤスデ



ヤンバルトサカヤスデの一生

- 卵→幼体→亜成体→成体と発育し、寿命は約1年~1年半です。
- 交尾期は、本土地域では11月~12月頃、奄美地域では10月~11月頃で、交尾後約1か月で産卵します。
- 卵は球状、乳白色、直径0.5mmで、一度に150個~350個程度、ぶどうの房状のかたまりで産み出されます。また、孵化率は高く、7日~10日前後で孵化します。
- 集団移動時期は、本土地域では8月~12月頃、奄美地域では年に2回あり、亜成体の集団移動が5月~6月頃、成体の集団移動が10月~12月頃に起こります。
なお、堆肥等で増殖した個体群の集団移動は、この期間以外にも起こります。
- 湿度の高い雨上がりの夜によく集団移動します。
- 繁殖力が強く、広域に定着すると根絶は困難といわれています。

まん延防止対策

ヤンバルトサカヤスデの拡大の原因は、人為的な移動によるものがもっとも大きいといわれています。

具体的には、園芸樹木等の根付き植物や鉢植え、堆肥等の農業資材、工事現場の残土などとともに卵等が運ばれ、棲息域が拡大していきます。

このため、まん延の防止には、地域住民の方々の御協力はもとより、園芸業、農業、建築業などの関係業者の皆様の御協力が不可欠です。

● 園芸業者の皆様へお願い ●

- ヤンバルトサカヤスデの発生地域から、根付き植物、鉢植え等を極力持ち出さないようにしてください。
- やむを得ず根付き植物を持ち出す場合には、株元・根回り部分の土にジョロ等を用いて、十分に薬剤を注ぎ込んでください。
- 鉢植えについても、根付き植物と同様にジョロ等を用いて処理するか、または鉢全体を薬剤に十分浸してください（小売店においては、入荷日に処理してください）。

● 農業者の皆様へお願い ●

- ヤンバルトサカヤスデの発生地域から、堆肥、敷きわら、芋づる等を極力持ち出さないようにしてください。
- やむを得ず持ち出す場合には、1週間ほど土に埋めてから持ち出してください。
- ヤスデが幼体の時期（本土地域：1月～8月頃、奄美地域：11月～6月頃）は、外部からの刺激に非常に弱いため、この時期に田畑の天地返しを行ってください。
- 水田等のかん水が可能な場所では、4～5月頃に一時的にかん水することで、生息個体を一掃することが可能です。

● 建設業者の皆様へお願い ●

- ヤンバルトサカヤスデの発生地域での工事で発生した残土、伐採木等は、極力地域内で処分するようにしてください。
- やむを得ず地域外で残土を処分する場合には、1日分の土を積み重ねるようにし（土の重さでヤスデが圧死する。）、最後の1～2台分の土は薬剤で処理してください。
- 伐採木等を地域外で処分する場合は、移動の前に薬剤で処理してください。
- 現場に出入りする際には、工事車両のタイヤ周りや機材等を薬剤で処理してください。

薬剤散布に当たっては、近隣の農耕地に薬剤が飛散しないように、また、河川や用水路（側溝）に薬剤が入らないように十分注意してください。

詳しくはお住まいの市町村役場の環境衛生担当課
又は県廃棄物・リサイクル対策課(099-286-2594)にお問い合わせください。